

佳作

かけがえのない時間

茨城県 日立市立豊浦小学校六年 齋藤 真生

私は、図書館で、『さよならの贈りもの』という本に出会いました。その本は、私とあまり年の変わらない女の子達の病気のお話です。

この本の内容は、ドーン・ロシエルという女の子が、十三才の春に白血病と診断され、家族や友達と病気に立ち向かっていくお話でした。たくさんの人々に支えられ、自分も病気になった事で、心も成長していくお話です。

白血病がどんな病気かと調べてみました。骨髄を移植したり、化学療法や大量の薬を飲み、ガン細胞をやっつけていかなければならなくて、何よりも薬の副作用で、かみの毛が抜けたり、はき気が止まらなくなったり、熱が出たり、とても大変な治療だということが分かりました。私がもし同じ病気になった事を考えると、こわくてたまらないと思います。こ

のお話の中にドーンも 辛く、悲しくて、大好きな家族にやつ当たりするほど、不安でいっぱいでした。入院生活がはじまった時、同じ部屋に同じ病気の女の子と出会い、辛さ、不安、喜びを二人で共有していきながら、おたがいをととても大切な存在と感じていくようになりました。私はきつと、人は同じ気持ちを共有してくれる仲間がいる事で、不安がなくなっていったり、辛い事を乗りこえていく事の勇気をもたらしていくのだと感じました。お話の中で、病気の一番の薬は、「必ずガン細胞をやっつける！」という強い意思が大切だと書いてありました。自分の考えをプラス思考に置き換えて、必ず健康な身体になるという強い意思を持つ事です。その力になっていたのはきつと、同じ気持ちを持ったサンデイとの出会いなのだと思いました。私も、実際に病気になる人と、健康な人とは、おたがいの気持ちはなかなか分かってあげる事が出来ないと思います。もちろん、家族もとても心配してくれますが、その時のドーンの気持ちは、同じ気持ちのサンデイとの入院生活で、前向きになっていったのだと思います。その気持ちの強さが退院につながったのだと思います。病気だから何も出来ないのではなくて、病気に

なったからこそ出来た、親友との楽しい時間を過ごせたのだと思います。しかし、残念ながら最後にはサンデイは亡くなってしまいます。それでもドーンは、大切な友達との時間、友達から得た心の成長、安心感を支えに、サンデイの分まで生き抜くという決意をして、人はこんなにも強くなれるのだと考えさせられました。

私は、この本を読んで心を強く持つ力は人を成長させてくれる事、人の気持ちを分かかってあげられる事も、優しさという強さだと感じました。どんな事がおきても、前向きに考えれば、乗りこえていける事。私は、改めて友情の大切さを感じました。この本に出会えて本当に良かったと思いました。